

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2071500330		
法人名	医療法人社団敬仁会		
事業所名	グループホームまほろば		
所在地	長野県塩尻市宗賀1295番地		
自己評価作成日	平成22年2月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2071500330&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2071500330&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成22年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりを大切に、その方に寄り添った介護を心がけ、尊厳を大切にし穏やかにそして、安心と安らぎのある施設づくりをしています。看取りケアの方には、その方にとって今何が一番大切で、必要なことを常に、医師、看護師、家族と考え、話し合い、最期を看取らせて頂いています。法人の目標である、接遇を大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人内の一角にホームが設置されており周辺には広大なぶどう果樹園が展開している。法人内の医師や看護師による365日24時間の医療連携体制による日常の健康管理から終末期の看取りの支援が行われ、ご家族の介護負担軽減に繋がり、入居者、ご家族の安心と安定した生活が確保されている。職員は福祉、医療に向学心を持ち施設長の理解の下専門職としての知識や技術のスキルアップに努めると共に、隣接の複合施設と連携を図りつつ地域密着型サービスの提供に当たられている。入居者は住み慣れた馴染みの環境、馴染みの人間関係、専門的ケアを受け、穏やかで安らぎのある生活を送られている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に、事業所の目標や、個人の目標を立て取り組んでいる。理念を認識し実践に繋げている。	法人理念「共に歩む」を基に日常的に職員間で話し合われている。なお地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念の構築に向け職員全員で検討されている事を伺った。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の周りがブドウ畑になっており、散歩に出た時など挨拶や、お話をさせていただき、梨や葡萄の収穫時期には、食べごろな所を購入して、日常的に交流できるよう努めている。	ホームは母体の医療法人敷地内に隣接しており、併設のデイサービスに通所される地域住民との交流を図られると共に、近隣を散歩される折に地域の住民と挨拶を交わしふれあいを持たれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の話し合いの場に、参加させて頂きたいと、働き掛けているが実行することが難しい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の活動報告や、利用者の状況等報告し、それについての意見交換を行っている。質問されたり指摘されたことを参考にし、サービスの向上に努めている。	ホームからの活動報告・今後の予定や防災対策、防災訓練についての説明、保育園との交流について等、今後の取り組みについて意見交換が行われている。	2006年の介護保険改正による地域密着型サービスの創設によりサービスの質の確保を図るために(その人らしい暮らしを続けるための日々の支援等)地域との支えあいが重要である。地域住民の協力の下、地域の行事等に参加をし、交流が得られるよう期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員の訪問や、地域包括の方に情報を提供、相談等を行い協力して頂いている。	運営推進会議の意義や役割を十分に理解して、参加・協力が得られる取り組みについての相談等ホームの実情を伝えると共に、情報提供に努められている。なお定期的に市の相談員の訪問を受けられるなど協力が得られている。	

外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしないケアの意識を持っているが、施設前が国道で、交通量が多いため、利用者のリスクを考え施錠することもある。	身体拘束は人権擁護の観点のみならず、身体機能や心理状態を悪化させ、高齢者のQOLを根本から損ないかねないことを、職員全員が認識されており、常に身体拘束をしないケアに努められている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について、常に意識しミーティング等で話し合い勉強会に似て学んでいる		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	情報収集を行い、成年後見制度について学び、理解するよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず書類を見て頂き、十分な時間をかけゆっくり質問等を受けながら、理解して頂けるまで説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、意見や要望を入れて頂けるようにし、気軽に相談して頂けるような環境づくりを心掛けている。また、市の相談員の訪問の機会も設けている。	ご家族ホーム訪問の折(面会時、家族会、運営推進会議等)に入居者の日頃の状況報告を行うと共に、意見や要望を伺い運営や日々のケアに活かされている。なお定期的に市の相談員が訪問して入居者の立場に立って意見を伺い運営に反映されている。玄関には意見箱も設置されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見を聞いたり、申し送り、ミーティング、カンファレンス等で意見交換を行い反映させている。	入居者の高齢化による機能低下が見られ、身体拘束と転倒・骨折予防について職員全員で話し合い、ホームケアの質の確保に努められている。	

外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員から意見を聞き、自発的に取り組む姿勢を大切にし、意欲向上に努めている。</p>		
13		<p><b>職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修を積極的に活用し、職員全員が参加できるよう取り組んでいる。</p>		
14		<p><b>同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>講習会などに参加し、意見交換が出来るよう努めている。</p>		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p><b>初期に築く本人との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>生活歴、環境、思い等、本人、家族から情報を頂き、要望に答えられるよう努め、いつでも不安や、要望に耳を傾け、安心して頂けるよう努めている。</p>		
16		<p><b>初期に築く家族等との信頼関係</b>                      サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>常に話しやすい環境を作り、家族の話をしっかり聴き、時間をかけて情報を頂きながら要望にこたえられるよう努めている。</p>		
17		<p><b>初期対応の見極めと支援</b>                      サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の意見を重視し、ケアプランを作成し、統一した介護を行い、他のサービスの紹介も行っている。</p>		



外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に家族として尊敬し、受容、共感できる関係作りに努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族からの意見を聞き、話し合い、家族に協力して頂ける事、施設で行えることを共有し、共に本人を支えていく関係を気付いていく努力をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や馴染みの方が来所された時は、配慮に心がけたり、お手紙などを差し上げたりして、関係が途切れないよう努めている。	過去の生活史情報の把握に努め、得られた情報を下に入居者と話し合わせ(逢いたい人、電話で話したい人、手紙を出したい人等)思いの実現が図られている。ホームではお友達や馴染みの方々の訪問を大切にされている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを大切にし、仲間に入れない方は職員が間に入り、孤立することのないよう支援に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、お手紙やはがき等を出したりし、相談や支援を行えるよう努めている。他施設へ行かれる方に対しては、次に住まれる場所への情報提供も行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や思いをしっかり受容しカンファレンスや、ミーティングを開き、ケアプランの見直しを常に行い、自分の思いを言葉にできない方の日々の観察、変化を見逃さず、気づきを大切に検討している。	自分の思いを適切に表現しにくい状態にある入居者には、言動、表情、雰囲気、心身の変化を把握し、ケア場面から十分に観察をして思いを察知するよう努め、職員全員で話し合い検討されている。	

外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集や、利用者とのコミュニケーションの中からプライバシーに配慮しながら、本人、家族と馴染みの関係を築き把握することに努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできる事、理解できることを、生活の中から発見し、ミーティング、カンファレンスにおいて、職員全員が把握するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師、看護師からの意見などを基に、毎月モニタリングに書き込み、カンファレンスにて意見を出し合い、本人に添う介護計画を作成している。	日頃の関わりの中より入居者、ご家族の思いや意向の把握に努めると共に、医師や看護師、担当職員の意見を基に職員全員で話し合い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画が作成されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスや日報に個別で記入し、職員全員が情報共有している。申し送り時、確認、話し合いを行い常に見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせ柔軟なサービスを行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域推進委員の方や、市の相談員の来所時情報交換を行っている。		

外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事前説明の折、かかりつけ医を聞き施設で在宅往診クリニックの利用が出来る事を伝え、同意を得ている。希望があれば、今までのかかりつけ医の利用もできる。	入居者、ご家族の同意を得て入居者全員が主治医は在宅往診クリニックを利用されている。なお歯科医療については入居前からのかかりつけ医にて診療を受けられている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回の来訪時気づいた点などを相談し、対応の仕方を教えて頂き、健康管理を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の医療関係者や、在宅クリニックの医師、看護師を含め、入院時の医療機関と情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、医師、看護師と常に話し合い、本人、家族の意向を尊重し方針を決定している。	状態変化に伴い主治医よりご家族に説明が行われている。入居者、ご家族、医師、看護師、職員と話し合い方針の共有を図り、看取りが行われている。開所以来すでに数人の看取りがおこなわれご家族に大変感謝されている。なお実践をおとして職員の力量アップに繋がっている。	今後更に終末に対する看取りの指針を定め、ご家族、医師、看護師、職員と話し合いを行うと共に、意志確認書、同意書等を作成し、入居者、ご家族にとって安心と納得をえられる対応に期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	在宅クリニックの医師がおり電話にて指示を受けながら対応している。また職員も常に緊急時の対応の仕方を教わり、実践できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回法人施設と合同で行っている。毎月ミニ訓練を行っている。また運営推進会議の折、地域の協力をお願いしている。	災害時対応マニュアルを作成し、消防署の指導を得ながら年2回法人施設(病院、老健、ケアハウス等)と合同で避難訓練を実施されている。なお防災意識を高めるために毎月ミニ訓練も行われている。(職員による夜間想定の実施されたことを伺った)	入居者の高齢化に伴い精神機能、身体機能の悪化傾向にあり、昼夜を問わず職員のみでの避難誘導には限界が伺える。日頃より地域住民よりの協力体制が得られるよう話し合い、具体的な支援体制を築かれるよう期待する。

外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮し尊厳を大切にしている。法人の方針でもある、接遇を大切に、日々チェックしている。	入居者の情報収集や外部との情報連携の おりに、情報の個別性や守秘義務につ いて十分理解をして、配慮や責任ある取扱 いと管理に努められている。なお入居者の 尊厳を支えるために、日常のケアにおいて コミュニケーションを大切に職員同士 気づいた時点で話し合われている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの様子を見、1対1の関わりをする中から、思い、希望などを話して頂けるような関わりを行い、一人ひとりが自己決定しやすいかわりを心がけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方に合ったペースで生活して頂いている。職員を優先するのではなく、その方に希望を聞いたり、様子を見ながら日々生活して頂けるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に身だしなみには注意し、行事や外出の際には本人に好きなものを選んで頂いている。季節に合った服装や2カ月に1回美容師さんに来所して頂き、自分の好きな髪型にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感があり、器や盛り付け、味付けにも気を配り、毎月の行事に合わせたメニューにしたり、希望を聞きメニューに入れている。	昼食準備時入居者の力が発揮できる場面を 儲け支援されている。春の季節感が味 わえる食材(ホームの庭で取れた露の臺な ど)をつかい入居者一人ひとりの身体状況 に合わせた調理形態がとられ提供されて いる。BGMを聞きながら美味しく完食 し、食器の片付けをされるなど自発的行動 が見られた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日毎回食事摂取量を一人ひとり記入し、水分補給の少ない方には、ゼリーなどにしたり、ジュースなど工夫し摂取して頂けるようにしている。医師、看護師必要に応じて栄養士の指導を受け、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		



外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>1日3回食後の口腔ケアを行い、本人の能力に応じたケアを行っている。口腔内の清潔保持を大切にしている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄は人間の最も羞恥な部分なので、一人ひとりのプライドを気づけない細心の注意を払い、声掛けや介助をしている。一人ひとりの表情や行動を見て、声掛けを行いトイレで排泄して頂けるようにしている。</p>	<p>排泄面のトラブル(失禁、便秘など)により精神的不穏の状態誘発や排泄の失敗により自尊心が傷つき、自信のなさや生活意欲の減退につながりやすいことを職員は理解されており、表情や行動よりの見極めに配慮しスムーズな排泄支援が行われている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事内容、水分摂取、1日1回から2回の運動、散歩、を行い、医師、看護師にも相談し個別対応している。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>週4回以上の入浴を心がけ、また個人希望に沿えるよう努力している。入浴には、季節の行事や入浴剤を入れ、入浴を楽しんで頂けるよう工夫している。</p>	<p>ホームでは入居者の意向にそった入浴支援に努めると共に、季節の行事(菖蒲湯、ゆず湯、みかん湯など)を取り入れたり、入浴剤をいれ入浴を楽しむことのできるよう支援されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の希望の場所で昼寝をして頂いたり、看取りの方は、毎日バイタルチェックを行い、体調に合わせた生活支援をさせて頂いている。夜間眠れない方の理由を探し夜間休めるよう医師、看護師とも相談アドバイスなどを頂き、ミーティングなどで話し合いを行っている。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服用に関して、職員全員が理解し、服用してからの状態などを、医師、看護師に伝え話し合いをしている。報告、連絡を密にしている。</p>		

外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活史を活かしたり、日々の会話の中から見つけたりし、毎日の日課を決め行って頂いたりしている。また興味を持って頂けるような話をしたり、見本を見て頂いたりして、楽しんで頂ける時間を大切にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の健康状態、天候、本人の希望等により、散歩、買い物、外食、ドライブに出かけ、施設の南庭で昼食を楽しんだりしている。家族にも事前に報告を行っている。	入居者のその日その日の状態や希望を伺いつつ、買い物、外食(ロイヤルホスト等)、散歩(近隣のブドウ畑周辺等)、ドライブ(木曽、桜や蓮の花見等)等入居者に合わせた移動の配慮をしながら、季節感や生活感を味わい楽しむことのできる外出支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、施設で行っているが、買い物に出かけた時は、利用者一人ひとりが好きなものを購入しお金を払って頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の申し出があれば、いつでも利用できる。家族にも協力して頂いている。また、手紙の書けない方は、職員が利用者に関心ながら手紙を書いてやりとりをしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、常に植物を絶やさないようにし、季節のお花を飾るようにしている。また、季節の暖簾をかけたり、利用者の作品を展示したりして心地よく過ごして頂くよう工夫している。	共用空間には季節感が得られる雛飾りや入居者の作品(刺し子、切り絵、ぬり絵、折り紙など)、フラワーアレンジメントによる春らしい花々が飾られ、安らぎや温もりが得られる工夫により入居者は穏やかに居心地よく過ごされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや半円テーブルが置かれており、お好きな時に利用され、新聞や雑誌、音楽、昔話など読んだり聞いたり、昼寝をしたりと利用頂いている。台所で職員とお茶を楽しまれる方もいる。		

外部評価結果(グループホームまほろば)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ、家族の協力のもと馴染みの家具や、作品、テレビ、植物を飾られたりしてその人らしい空間になっている。	入居者の思い思いの品(使い慣れた家具、テレビ、生活用品など)が持ち込まれると共に、ホームで作られた作品や花が飾られ居心地の良い居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の「できる事」「できない事」「理解できる事」「理解できない事」を職員全員で共有し「できる事」「理解できる事」を職員が支援してしまわないよう努めている。利用者が自立した生活が、長く送れるよう安全に気をつけ、「理解できない」「出来ない」ところを支援し、自分でできるような支援の工夫をしている。		